



山梨大学附属図書館報

ISSN 1348-5458

やまなし

2005.11.1
vol.3

no. 1

contents

- 1 新・附属図書館
医学分館長として
- 2 電子ジャーナル・データベース
の提供について
- 3 電子ジャーナル・データベース
Q&A
- 4 利用者の声
- 5 学生にすすめる本
- 6 図書館統計
- 7 図書館トピックス

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library
<http://www.lib.yamanashi.ac.jp>

新・附属図書館医学分館長として



附属図書館医学分館長
(環境遺伝医学講座)

くぼた たけお
久保田 健夫

一昨年、東京の研究所から異動してきた際、山梨大学では生物系トップジャーナル出版社Cell Pressと電子ジャーナル契約していないことが意外で、歴代の分館長の先生方にしつこく契約を要望いたしました。その反動か、昨年、「附属図書館の将来設計に関する調査研究プロジェクト」の委員に指名され、なぜか前分館長の大山先生から次期分館長の打診をうけ、本年4月より医学分館長を勤めさせていただくことになりました。

学生時代からさまざまな図書館のお世話になり、勤務地を転々としてきたせいも、高校から数えて山梨大学附属図書館医学分館で数えて12館目となりました。この間、図書館の利用の仕方も、高校卒業間際は昼休みに受験勉強を、大学時代は運動部の練習開始までの時間つぶしに、卒業後は必要な文献をさがすために、と変化し、今は利用する側から利用させていただく側になった次第です。

昨今の大学事情のご多分に漏れず、本学図書館をめぐる財政事情は大変苦しく、この半年間の分館長業務の大半は、お金の計算と学内のご歴々との折衝であったといえます。その最大の原因は電子ジャーナル契約料の高騰です。電子ジャーナルはわざわざ図書館までいかななくても、いながらにしてコンピューターで論文をみつけダウンロードできるシステムで、一度慣れると2度と手放せなくなる便利なものです。私の教室員も含め若手研究者の間ではこの「麻薬」が蔓延しています。このような利用者特性の足下をみて、電子

ジャーナル出版社は、どこも毎年、契約料を大幅に値上げしています。これと逆比例するかたちで、大学予算および図書館経費は削られています。このような事情の中で、これから図書館をどのように運営（経営）していけば良いのでしょうか？これが本館・分館共通の今最大の課題です。

話は変わりますが、最近の毎日新聞のコラムに、「自殺したくなったら、図書館に行こう」と心が沈んでいる友人に言って回っている人の話しがでていました。滋賀県の能登川町立図書館では、ゆったりとしたスペースの中にも書架で他者から見られない視角をあえてつくりだし、公共の空間でありながらも誰もが独りになれる「居場所」を提供しているとのことでした。その館長は「図書館はよりよく考え、生きるための場です。行き場のない人、ケンカをしても隠れる場所がない人たちを孤立させず、自殺させない。それも図書館の役割です」と語っておられたということでした。

分館長になってまもない頃、たまたま早朝に大学に来た際に、駐車場から分館の2階の電気が煌々として見えました。つけっぱなしかと中に入ってみると、6年生たちが数名、熱心に徹夜で勉強をしていました。厳しい事情の下ではありますが、分館スタッフ（カウンターの親切度は今まで利用した図書館の中で随一と思っています）や大友先生を始めとする本館の方々の助けを借りながら、山梨大学医学部の勉学熱心なこの良き伝統を守っていくために、また分館が学生や職員の方々の心落ち着く場となるように、分館長としての任務を全うしていきたいと考えています。職員や学生の皆様方から忌憚なきご意見を賜れましたら幸いです。

電子ジャーナル・データベースの提供について

電子ジャーナルとは、インターネットを通してオンラインで読める雑誌のことで、近年学術雑誌の主流となりつつあります。

電子ジャーナルの主なる特徴として、

1. 24時間いつでも研究室の端末から利用できる。
2. 冊子より速報性に優れている。
3. 全文検索やキーワード検索など高度な検索機能を持つ。

等があり、迅速に成果を求められている現代の研究環境に適した出版形態となっています。

本学では、学部構成、研究者数、予算を勘案し、より効率のよい最新学術情報の提供を可能とするため、生命科学、医学分野を中心として、幅広い分野の電子ジャーナルを契約しています。無料で読める電子ジャーナルも多く存在し、平成17年には、7千種を超える雑誌を料金を気にせずに読むことが可能となっています。また、国内の学協会誌も着実に電子ジャーナル化されており、欧文誌約130誌、和文誌約230誌を学内から読むことができます。

実際、本学の教員、学生により読まれた電子ジャーナルの論文数が平成15年度は約7万、平成16年度は約9万と近年、増加の一途をたどっており、やっと一定の評価を得てきたようです。

学術文献データベースでは、電子ジャーナルでは読めない論文を含め、それぞれの研究、学習の参考になる論文を見つけることができます。データベースの種類は、国内雑誌文献、欧文雑誌文献、医学・医療・看護学関連文献、教育学関連文献等々必要とする学問分野により、いろいろ用意されています。

なお、残念なことではありますが、欧文学術雑誌、電子ジャーナルの高騰及び法人化による資料費の逼迫に対応するために、本年度附属図書館運営委員会のもとに「電子資料検討専門委員会」を立ち上げ見直しを進めてきました。その結果、有償契約の電子ジャーナル及びデータベースのうち、次のものを中止することに決まりましたのでお知らせします。

2005年12月をもって中止の電子ジャーナル

- ・ Cambridge University Press
- ・ APS(American Physical Society)
- ・ Kluwer

2006年3月をもって中止の電子ジャーナル

- ・ Springer Link

2006年3月をもって中止の学術文献データベース

- ・ OVID PsycINFO
- ・ SciFinder Scholar (甲府限定)

以上、簡単に紹介しましたが、詳しくは図書館ホームページをご覧ください。また、サービスカウンターでもご相談に応じますので、お気軽にお尋ねください。

(資料情報グループ)



■ 電子ジャーナル ■

(利用者の方から実際受けた質問を掲載しました。)

Q1	電子ジャーナルって何ですか？また、どのように利用すればいいのでしょうか？
A1	電子ジャーナルはインターネットを介してPDFやHTML形式で雑誌論文等の全文が利用できる雑誌のことです。図書館のホームページの「電子ジャーナルリスト」からご利用ください。
Q2	電子ジャーナルは使ったことがないのですが、図書館電子ジャーナルサービスのタイトルリ
A2	タイトルリストに載っている雑誌は、基本的に図書館で契約していますので(一部無料提供されている雑誌が含まれています)，学内LANから接続すれば、無料でご利用いただけます。
Q3	電子ジャーナルのフルテキストを読もうとすると、パスワードを要求されますが、どのようにしたら入手できますか？
A3	図書館で契約している電子ジャーナルかどうかを確認する必要があります。図書館ホームページの電子ジャーナルタイトルリストに雑誌名が掲載されているかどうかを確認してください。その際、利用できる年代にもご注意ください。 <リストに掲載されている場合> ①“パスワード”の注記があれば、そこをクリックして”ID・パスワード”をご覧ください。 ②リストに雑誌名があるが、“パスワード”注記がない場合は、利用環境に問題があつて読めないか、または更新手続きがうまくいっていないことが考えられます。 serv@ccn.yamanashi.ac.jp までメールでご連絡ください。 <リストに掲載されていない場合> ①図書館では契約/登録していない電子ジャーナルのため、ご利用いただけません。
Q4	日本語の電子ジャーナルもありますか？
A4	出版されています。国立情報学研究所提供のNII-ELS，科学技術振興事業団提供のJ-STAGEなどがあります。
Q5	フリーアクセスジャーナルって何ですか？
A5	誰でもどこからでも無料で利用できる電子ジャーナルです。利用できる年代が限られる場合もあります。電子ジャーナルサービスストップページにも掲載されていますので、どうぞご利用ください。
Q6	「電子ジャーナルタイトル検索」にあるタイトルを選んだがリンクされず、「File not found」と表示されてしまいます。どうしたらいいですか？
A6	随時チェックはしていますが、電子ジャーナルのURLが変更されている可能性があります。serv@ccn.yamanashi.ac.jp までメールでご連絡ください。

■ データベース ■

Q7	データベースにログインしたら”ユーザ数がオーバーしました”という表示がでました。
A7	データベースには同時ログイン数が決まっているものがあります。しばらく経ってからも
Q8	データベースにもフリーのものがありますか？
A8	無料で公開されているデータベースもあります。図書館のホームページでもご案内をしていますので、参考にしてください。また、カウンターでもご相談に応じますので、お気軽に声をかけてください。

便利な図書館

大学院医学工学総合教育部
医科学専攻 修士課程1年次生

せきぐち ふみなお
関口 文尚

医学分館の最大の長所は、図書館員の方々がとても親切であることだ。

私は学部生の時は、他大学の福祉学科に在籍していた。そのため、入学直後は、他の学生に比べ、医学系の図書・文献検索方法について不慣れであり、研究テーマに関連した資料の検索もより多くの時間を必要としていた。そんな時、図書館員の方に、資料の検索方法について尋ねてみたところ、今までよりもスムーズに目的とする資料の所在が確認でき、新たな検索方法についても知ることができた。また、別の機会には、数回に亘り、検索方法について質問した際にも、その都度適切に対応して下さった。

さらに、利用者である学生に配慮された環境が整っていることも、医学分館の魅力である。例えば、通常の図書館開館時間帯以外でも、登録をすることにより図書館の利用が許可されるサービスである。朝一番に資料を集めたいときや、夜間講義終了後に図書の閲覧が可能である。必要なときに、図書や文献について確認できるということは、学生にとって学びやすい環境といえる。他にも自習に取り組みやすいよう窓際に一人用の机が個々に配置されていることもありがたい。またグループ学習をする場合には、学習室を利用することもできる。このように、学習形態にあわせた設備がある。

以上が医学分館ならではの利点である。必要と考えられるほどの改善点が見当たらない。このような図書館を利用させていただけることを幸せに思う。今後も大学院での研究のために、医学分館を大いに活用していきたい。

ネットで調べた情報を全て信じてしまっているのか

大学院医学工学総合教育部
電気電子システム工学専攻 修士課程2年次生
(夜間カウンター担当)

ほしの
星野 さとみ

『ネットで調べた情報を全て信じてしまっているのか。』

研究生になって心底思うことである。ネットワークが普及し、ネットでググればすぐ情報は私達のもとに1秒とたたないうちに届く。便利な世の中になり、それにどっぷり浸かっている人間の一人としての私であるが、浸りすぎて真実を知ることには怠慢になっていないだろうか。ネットに掲載されている情報のほとんどが他人の目に触れずに世に送り出されている物ばかりである。絶対に間違いはないという情報だけがネット上に送りだされるには限らない。間違えて解釈していること、書き間違えてしまっていること、それらの間違った情報が誰の目も通らずにネット上に配信されてしまっていることを、私はこの2年半で思い知った。そんな私が行き着いた先が、図書館であった。図書はネットの情報と違い、出版されるまでに数人の目が通り、間違いのないようにとチェックが入る。たまに記載間違いなどがあるが、稀な話で、ネットの情報より信頼度は高い。人によっては、便利な情報化社会の波に乗らないなんてアナログ人間だ、と感じると思うが、ときにデジタルよりもアナログの方が正確である場合もある。現代がそれに値すると日々切実と感じ、デジタル社会だからこそアナログに真実を見出すべきだ。そのためには図書館は切っても切れない存在であると感じてならない。



「ハルモニア」

◆ 篠田節子 著 マガジンハウス 1998

教育人間科学部 音楽教育講座 かたの こうき
片野 耕喜

私は音楽教育講座で声楽を担当しています。自分の個人的な興味の範疇ですが、音楽に関する小説をご紹介します。

音楽に関する本は目に付くと読んではいりますが、今日紹介する「ハルモニア」以前に、音楽や芸術を題材にした小説で心を打たれたことは一度もありませんでした。その一番の理由は、「音楽」というものを全く理解していない人間が、美しいことばを駆使して一生懸命、こっけいなほど「音」の描写をしようとするからでした。

さてこの「ハルモニア」、様々なテーマをちりばめています。「天才論」「演奏の一回性」「演奏の記録の意味」といった言葉にピンと来る人なら、ここから先は読まなくてもぜひ即読んでいただきたい。そうでない人には、まずこの小説がいわゆる「ご当地小説」であるということから（ちょっと通俗的だけど）おすすめします。そう、舞台は甲府と、富士見高原なのです。

さて登場人物は・・・音大を主席で卒業しながらも地方のオーケストラで仕事をするチェロ弾きの東野。その男がチェロを教える、脳に大きな障害を持つ、しかし譜読みの面で恐ろしい才能を持つ由希。その女性をサポートする過去に傷を負う臨床心理士。音楽を知らない音楽療法士。そして急逝した世界的な女性チェリストの亡霊。こうした人間達が、血を流しながら由希に対していくというお話しです。宇宙のハルモニア、バッハの音楽にあり。感銘を受けた方はぜひ感想を！

所蔵案内：『ハルモニア』
本館2階 一般書架
分類：913.6



「ガン回廊の朝」

◆ 柳田邦男 著 講談社文庫 1981

医学部 外科学講座第一教室 こうの こうじ
河野 浩二

いささか古い出版の本で恐縮ではあるが、自分自身の経験から医学生、学生の皆さんに、気軽に、なおかつのめりこんで読んでいただきたい本です。

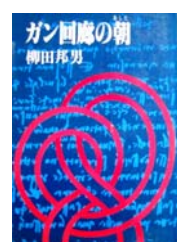
自分が医学生になりたての頃出版された本で、国立がんセンターを舞台とした医療ドキュメンタリー小説です。その後、マスコミに取り上げられテレビドラマ化されたため(私自身は知らなかったが)、世俗的な印象を受ける方もおられるかもしれないが、本の内容は極めて実証的で、これから医学を学ぶ者にとっては大変興味深く、没頭できる内容と言えるのではないかと。

たとえば、胃カメラの開発にまつわる章では、機器の開発から臨床応用にいたる長年の努力と苦悩が描かれ、当時の医師たちの執念が如実に表現されている。胃カメラの開発と早期胃癌の診断技術は、日本が世界に誇る画期的な業績へと発展し、現在の医療における貢献ははかり知れない。

また、発癌実験や癌遺伝子の発見にまつわる章では、有名な山際博士のコールタール発癌のくだりが描かれ、教科書に登場する発癌メカニズムとともに、その背景や発見にいたる人間模様が手に取るように理解できる。

医学生当時、この本の内容をこれから医者となる自分に重ね合わせ、なんとなく興奮した自分を今でも覚えている。いささか自分自身の思い込みではありますが、私自身が癌医療に携わりたいという将来の動機づけとなったこの本を、医学生、看護学生の皆さんに薦めます。

所蔵案内：『ガン回廊の朝』
医学分館2階 第2閲覧室
分類：916



1 図書館利用統計(H16年度)

(1)開館日数・入館者数

区分	開館	入館者数(人)		
	日数	学内者	学外者	合計
本館	266日	123,525	2,013	125,538
分館	288日	121,143	650	121,793

(2)館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査
	学生	教職員	学外者	合計	件数
本館	16,932	1,099	531	18,562	2,451
分館	10,126	1,878	364	12,368	3,119

(3)相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	317	310	3,094	3,207
分館	88	29	4,333	4,431
合計	405	339	7,427	7,638

(4)子ども図書室

開館日数	102日
入室者数	1,257人
貸出券発行人数	98人
蔵書冊数	2,258冊
貸出冊数	1,445冊

2 図書館蔵書統計

(1)図書・雑誌蔵書数(H17.3.31現在)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)			電子ジャーナル
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計	(タイトル数)
本館	339,531	129,064	468,595	6,754	2,198	8,952	—
分館	50,187	47,332	97,519	1,864	1,410	3,274	—
合計	389,718	176,396	566,114	8,618	3,608	12,226	7,314

(2)図書・雑誌受入数(H16年度)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	5,839	702	6,541	2,396	407	2,803
分館	2,166	1,186	3,352	554	453	1,007
合計	8,005	1,888	9,893	2,950	860	3,810

3 電子ジャーナル統計

電子ジャーナル(2004/1~2004/12) fulltext ダウンロード件数

Science Direct (Elsevier)	55,467	Cambridge University Press	344
Springer Link	4,350	Oxford University Press	4,903
Kluwer (2006年springerと統合)	2,571	Nature	6,787
Blackwell Synergy	7,755	Science	2,860
Wiley InterScience	8,409	American Physical Society	2,134
Karger	1,324		

スピノザ・コレクション展開催

附属図書館では、7月2日から16日まで、山梨大学附属図書館蔵スピノザ・コレクション展「スピノザと思想家たちの時代：書物が物語る近代初期の知的な揺動」を開催しました。会期中、300人以上の来場者がありました。

初日の講演会では、熱心にメモを取る方が多く、講演終了後には会場から質問が相次ぎ、関心の深さがうかがわれました。

また、最終日の演奏会では、教育人間科学部音楽教育専修の片野耕喜助教授による17～18世紀の音楽における時代背景の解説とともに、当時のオランダとその近隣諸国の音楽が演奏され、聴衆はスピノザの時代の雰囲気堪能し、好評のうちに閉会しました。



“生と死のコーナー” 関連講演会の開催

医学分館では、地域貢献事業“生と死のコーナー”関連行事として、10月19日、医療法人どちペインクリニックの土地邦彦理事長を講師に迎え、「緩和ケアの現場から－在宅と有床診療所での終末期医療－」と題して講演会を開催しました。

土地氏は現場の医師として、地域の在宅

医療の現状、患者とその家族の関わり方などにも触れながら、緩和ケアについて具体的にわかりやすく説明し、約1時間半に渡って講演を行いました。学生や地元住民の方などを含む約80名が聴講し、会場では真剣にメモを取る姿もみられ、講演終了後も会場の参加者から予定時間をはるかに越えて活発な質疑応答がありました。



お知らせ

■ 学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般社会人の方々も利用できます。詳細については、<http://www.lib.yamanashi.ac.jp>をご覧ください。本館Tel 055-220-8066(情報サービスグループ)、医学分館Tel 055-273-9357(医学情報グループ)にお問い合わせください。

■ 「図書館資料利用の手引き」について

前号まで館報に連載していました「図書館資料利用の手引き」ですが、館報発行に合わせたものより速報性を重視する必要から、現在News Letterとして発行している「図書館ニュース」に内容を引き継ぎ、

随時利用者の皆様へお届けすることになりましたので、ご利用ください。



山梨大学附属図書館報 「やまなし」 第3巻第1号

2005年11月1日 発行

編集：館報編集委員会
発行：山梨大学附属図書館
〒400-8510
甲府市武田四丁目4-37
TEL 055-220-8063

●表紙撮影：図書課総務グループ係長 田中成人
場 所：甲府キャンパス 教育人間科学部S号館南側